

一七拾七貫四百文

京此內廿一兩寺社除之○中略

野依修理進

雄春判

〔木曾路之記〕垂井より關原へ一里半

垂井の近所に小島といふ所あり、兼良公の藤川の記に曰、文和の頃後光嚴院南軍をおそれましまして小島に行幸有し次に民安寺と云ふ律院にわたらせ給ひけるとなん。

〔兼山記〕齋藤大納言之事

濃州可兒郡中井戸ノ庄雁山下申スハ天文ノ初齋藤大納言シツラヒ給ヒ暫ク居住ス、山高フシテ雲聳エ前木曾川ノ流幸ニ要害ト成、

〔康正二年造内裏段錢并國役引付〕合

中略

貳貫文○申
深坂次郎殿

濃州深澤草安保

段

〔蔭涼軒目錄〕長祿二戊寅六月廿三日玉龍庵領不知行之在所、美濃國玉村保之事伺之即可被還附之由有命也。

〔濃陽志略〕十
附錄郡邑區別

元和元年八月以信州木曾及濃州沿河地三萬石增封張藩。元和五年重以濃州上有智等地五萬石增封張藩。其餘數人附屬我敬公。會以東照神祖所賜食邑仍舊領焉。奉仕張藩世謂之給人高。其郡邑隸于左：

大野郡 付寄 下座倉 東横山 小衣斐 澤辻 乙原 南條 岡島 郡家 安八郡 北今淵 大野 大明神 成田 池田郡 岡 片山 西横山 東野 大門 方縣郡 鷺山 折立志段味 厚見郡 萱場 古津 本巣郡 曾比中島 山縣郡 上野 中屋敷 多藝郡 飯田 石津郡 市瀬 福江 城屋敷 中島郡 大浦 駒塚